

小中一貫教育を実施している先進地視察結果のとりまとめ

I. 視察の概要

1) 目的

今回の視察は、本検討委員会委員が小中一貫教育及び義務教育学校に関する知見を深めるとともに、義務教育学校のメリット・デメリットについてより多角的に議論できるようにすることを目的に実施しました。

2) 参加者

- ・各務原市学校適正規模・適正配置等検討委員会 7名
- ・各務原市（市長・副市長・教育長・教育委員会事務局職員 7名）

3) 視察行程

当日は以下のスケジュールで視察を実施しました。

表 視察行程と参加者

日時	視察先
令和8年6月30日 午後1時30分～午後4時00分	王寺町立王寺北義務教育学校
令和8年7月1日 午前9時30分～午前11時30分	京都市立洛西陵明小中学校
令和8年7月8日 午後1時30分～午後3時30分	福岡市立住吉小中学校
令和8年7月9日 午前10時00分～正午12時00分	嘉麻市立稲築東義務教育学校

2. 王寺北義務教育学校の概要

王寺北義務教育学校は令和4年4月に開校した義務教育学校です。学校図書館を児童生徒の読書活動の推進、充実の拠点とするだけでなく、情報活用能力の育成にも資するよう、オープンスペースのメディアセンターを1～3階の各階に設置していることが特徴です。

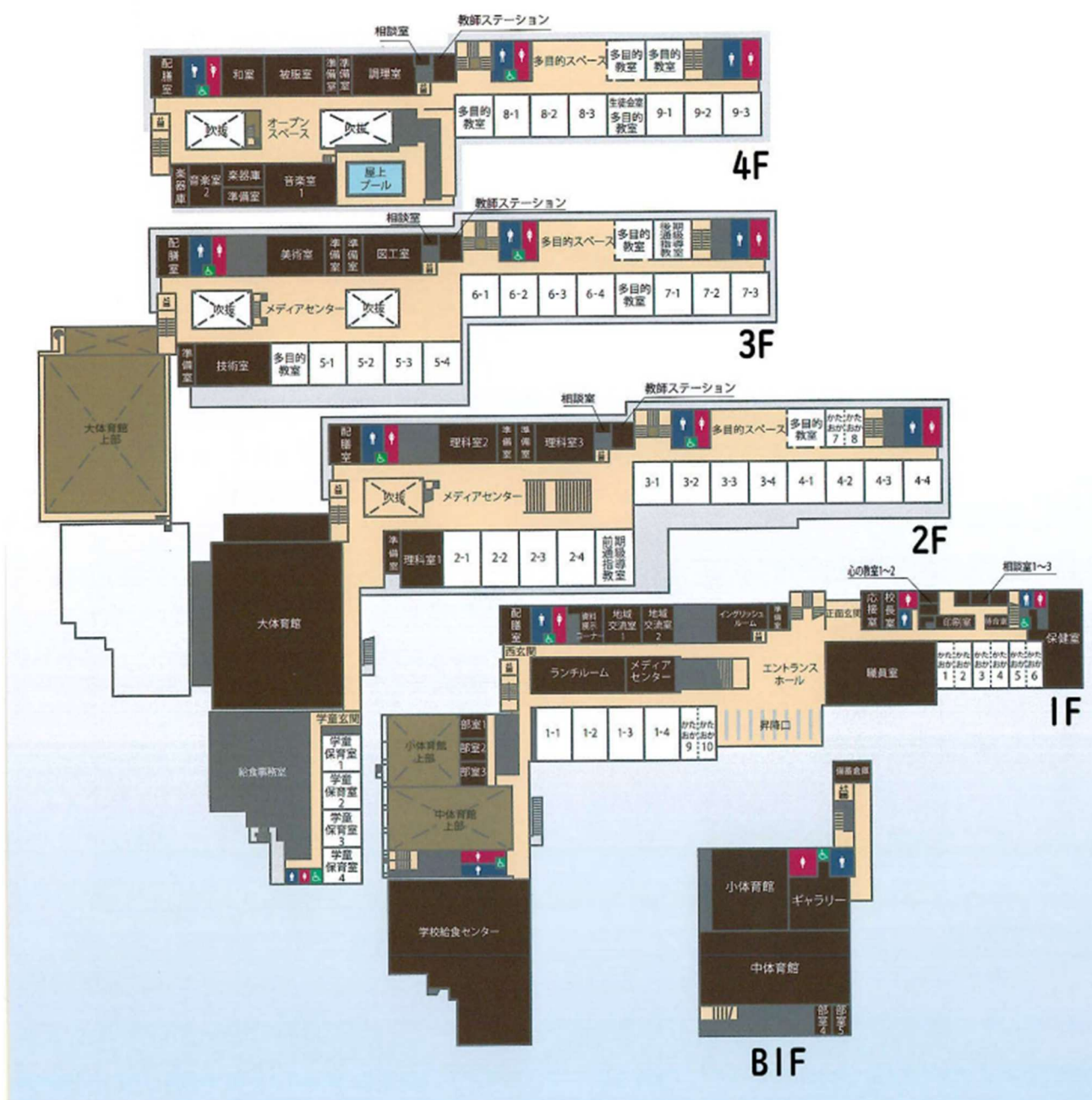
表 施設概要

学校名	王寺町立王寺北義務教育学校
学校種	義務教育学校
所在	〒636-0012 奈良県北葛城郡王寺町本町1丁目20番45号
学校の特徴や現場の声	王寺町では、令和4年4月に町内の3小学校と2中学校を、施設一体型と分離型の義務教育学校2校に再編統合しました。施設一体型の本校は、第1～6学年の児童と第7～9学年の生徒と一緒に学ぶ児童生徒数約1,100人の義務教育学校として開校しています。 学年区分を4-3-2制とし、第1～4学年を習得期、第5～7学年を充実期、第8、9学年を発展期として9年間の系統性のある教育活動の実現を目指しています。 (略) 王寺北義務教育学校では、学校図書館を児童生徒の読書活動の推進、充実の拠点とするだけでなく、情報活用能力の育成にも資するよう、オープンスペースのメディアセンターを1～3階の各階に設置しています。 (略) 義務教育学校となり、同学年の友達が増えることや、異なる学年との交流が行われることは、人間関係を形成する力やコミュニケーション力をより豊かに育む機会となります。こうした力は、学校で集団生活を送ることで豊かに育つものであり、今後も変わらず様々な集団生活を提供できる学校であるよう努めるとともに、家庭・地域と手を携え、一人一人の児童生徒の育ちを支え、見守る教育を進めてまいります。 (王寺北義務教育学校ウェブサイトより引用)
校舎	地上4階、地下1階 鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造 敷地面積：約35,000㎡、 建築面積：約6,400㎡ 延床面積：約18,000㎡ 屋外運動場：約14,000㎡

表 児童生徒数(令和8年5月1日現在)

学年	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	7年生	8年生	9年生	合計
児童生徒数	128	121	135	142	129	135	114	107	124	1,135人
通常学級数	4	4	4	4	4	4	4	3	3	34

(王寺北義務教育学校要覧をもとに作成)



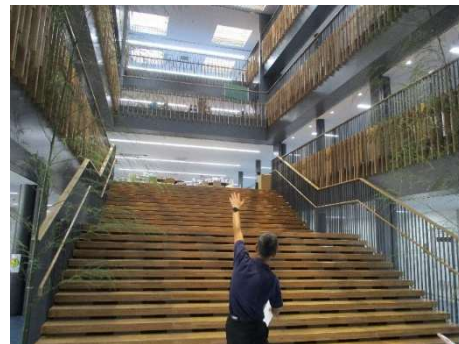
(王寺北義務教育学校要覧より抜粋)

図 教室配置図

王寺北義務教育学校の様子



【校舎内の様子(回廊)】



【校舎内の中心にある大階段】



【各階中央にあるメディアセンター】



【大アリーナ】



【低学年用のメディアセンター】



【横長(8m×9m)の教室】



【グラウンドの様子】



【職員室の様子】

3. 洛西陵明小中学校の概要

洛西陵明小中学校は令和6年4月に開校した義務教育学校です。広々とした新校舎や充実した教育環境を活用しながら、地域とのつながりを重視した「地域ぐるみの教育」を推進しています。

表 施設概要

学校名	京都市立洛西陵明小中学校
学校種	義務教育学校
所在	〒610-1113 京都市西京区大枝南福西町一丁目7番地
学校の特徴や現場の声	京都市の新たな義務教育学校である洛西陵明小中学校は、「歴史と伝統あるこの地域の竹林のごとく、困難に対しても折れることなく、自己実現に向けて挑み続け、未来を創造する人」の育成を目指してまいります。 その過程においては、前期課程・後期課程の分け隔てなく、9年間を一体としてとらえ、全ての教職員で子どもたち一人一人へ教育活動を実践していきます。また、義務教育終了時には、子どもたちが世界に視野を広げ、「どの社会のどの人たちとも臆することなく関わり、そこで活躍できる自立した社会・地域の担い手」になれるよう、施設一体型小中一貫教育校の教育資源を最大限活用し、社会とつながりある教育に全力で取り組んでまいります。 (京都市立洛西陵明小中学校ウェブサイトより引用)
校舎	地上3階 鉄筋コンクリート造 一部木造・鉄骨造・鉄骨鉄筋コンクリート造 敷地面積:約21,700㎡ 建築面積:約6,300㎡ 延床面積:約15,000㎡ 屋外運動場:8,271㎡

表 児童生徒数(令和8年6月時点)

学年	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	7年生	8年生	9年生	合計
児童生徒数	64	53	70	76	72	63	79	70	71	618人
通常学級数	2	2	2	3	3	2	3	2	3	22

洛西陵明小中学校の様子



【校舎内の様子】



【多目的ホールの様子】



【3F総合メディアルームの様子】



【2F多目的ホールの様子】



【教室の様子】



【職員室の様子】



【廊下の様子】



【1F多目的ホールの様子】

4. 住吉小中学校の概要

住吉小中学校は平成27年4月に開校した福岡市博多区美野島に位置する施設一体型の小中連携校です。福岡市が推進する小中連携教育の先進的なモデル校の一つとして位置付けられており、小学校から中学校への進学時に生じやすい学習面・生活面の不安を軽減し、児童生徒の成長を継続的に支援する仕組みを整えています。校舎は都心部に立地しており、3階にある屋外グラウンドの下層部にも諸室が整備されているなど、限られた敷地条件の中であっても、小学校と中学校が同居しながら小中連携教育を実現しています。

表 施設概要

学校名	福岡市立住吉小中学校
学校種	小学校・中学校（施設一体型小中連携教育校）
所在	〒812-0017 福岡市博多区美野島3-22-7
学校の特徴や現場の声	住吉小中学校は、「施設一体型小中連携教育校」。 「施設一体型小中連携教育校」では、小学校と中学校が同じ校舎で一緒に生活し、他の一般の小学校や中学校と比べると、小中の先生方が連携した取り組みを行ったり、小中学生が互いに交流したり、小中合同の行事を行ったりすることが容易。 小学生にとっては中学生が「身近なよきお手本」となり、中学生には小学生が身近にいて、「よき先輩でいよう」という意識が働き、お互いの成長につながる。 小学生が中学校に進学するときの不安など、いわゆる中1ギャップがほとんどない。 9年間を通して、小中で連携、協働しながら、児童生徒一人ひとりの確かな学力、豊かな心、健やかな身体をはぐくむことができる。 （福岡市立住吉小中学校ウェブサイトより引用）
校舎	地上6階地下1階 鉄筋コンクリート造 敷地面積：約11,000㎡ 建築面積：約8,600㎡ 延床面積：約24,000㎡ 運動場面積：約5,300㎡ （※別途第二グラウンドあり 部活動などで使用）

表 児童生徒数（令和8年5月1日現在） ※通常学級のみ

学年	小学 1年生	小学 2年生	小学 3年生	小学 4年生	小学 5年生	小学 6年生	中学 1年生	中学 2年生	中学 3年生	合計
児童 生徒数	87	84	102	115	96	101	93	93	92	863人
通常 学級数	3	3	3	4	3	3	3	3	3	28

住吉小中学校の様子



【廊下の様子】



【学校内の様子】



【教室の様子】



【小中共通の図書室】



【体育館（校内に2箇所所有）】



【柔剣道場】



【多目的に使えるランチルーム】



【屋内プール】

5. 稲築東義務教育学校の概要

稲築東義務教育学校は令和5年4月に開校した義務教育学校です。校舎の特徴として、学校の中心に「メディアコモンズ」を設け、全学年が自然と集まる共有空間としていることが挙げられます。学年を超えた出会いや活動が生まれ、学校全体に活気と一体感をもたらしています。

表 施設概要

学校名	嘉麻市稲築東義務教育学校
学校種	義務教育学校
所在	〒820-0203 福岡県嘉麻市平1536番地
学校の特徴や現場の声	図書室を中心にラウンジと特別教室を配置した平面構成（メディアコモンズ）により、書籍と教科の連携教育による学習意欲の向上を促し、主体的で対話的な深い学びの場を創造 学年のまとまりを大切にするため、学年ユニットを形成 各学年ユニットはガラス窓付扉で仕切ることができ、学年ごとの活動に対応 4・3・2制を意識した学年配置 各グループの中心にコモンズ（共有空間）を配置しグループ内の交流を促進 学年ユニットを多方位に配置 学年ごとに日照、方位、階数等、学校生活環境に変化を持たせ、9年間の学校生活の中で成長を実感できる配置 2階に全学年が使用するメディアコモンズを配置し、異学年交流を促進 （稲築東義務教育学校パンフレットより引用）
校舎	地上3階 鉄筋コンクリート造一部鉄骨造 敷地面積：約30,800㎡ 建築面積：約5,900㎡ 延床面積：約11,900㎡ 屋外運動場：約9,116㎡

表 児童生徒数（令和8年5月1日現在）

学年	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	7年生	8年生	9年生	合計
児童生徒数	46	33	57	64	42	45	63	50	53	453人
通常学級数	2	2	2	2	2	2	2	2	2	18

稲東通信4月号（令和8年4月6日発行）

稲築東義務教育学校施設案内リーフレット

より



(稲築東義務教育学校施設案内リーフレットより抜粋)

図 教室配置図

稲築東義務教育学校の様子



【校舎内の様子】



【校舎内の様子】



【メディアコモンズの様子①】



【メディアコモンズの様子②】



【メディアコモンズの様子③】



【大アリーナ】



【教室前のオープンスペース】



【教室の様子】

6. 視察結果

生徒の様子については、全体的に挨拶がしっかりできる児童生徒が多く、落ち着いた授業風景がみられるといった意見が複数みられました。

授業の様子については小・中学校の教員によって乗り入れ授業や教科担任制が実践されていて良いといった意見が複数みられました。一部の学校においては、授業の一環で民間のデザイナーをゲストティーチャーとして招くなど、授業内容を工夫し子どもたちの興味・関心を引き立てている点が良かったといった意見もみられました。

教育環境（ソフト面）については、ステージ制を取り入れてステージ毎に特色ある取り組みを実施することや行事やねらいに応じて学年の区分けを変化させることができることが良いという意見がみられました。また、子ども達同士で考え教え合う場面がみられて良いといった意見もみられました。教育環境（ハード面）については、建物内がゆとりある空間構成となっている点が良いといった意見が複数みられました。また、一部の学校では個人やグループの探究活動にも活用でき、発表スペースにもなるメディアコモンズが良かったといった意見もみられました。

義務教育学校のメリットについては、1年生と9年生などの異学年交流が容易にできるという意見が複数みられました。小学校から中学校に進学する際に不登校数が増えていないことから、中1ギャップを解消する効果がでているといった意見もみられました。

総括としては、開校の数年前から計画的な準備をし、ソフト・ハードの両面から施設を使いこなすことが重要であるといった意見がみられました。また、義務教育の9年間を見通し、一貫した教育を実施しやすいといった意見もみられました。

1) 王寺北義務教育学校

● 生徒の様子と学校の雰囲気（異学年の関わり、学校全体の活気や落ち着きなど）

- ・各学年とも落ち着いて授業を受けていた。（複数回答）
- ・上級生がランチルームで1年生に校歌指導する等、異学年のコミュニケーションがとれている。

● 授業の様子（教科・学年、指導の工夫※教科担任制や乗り入れ、学年間の指導内容の入替や前倒し、独自教科など）

- ・低学年の教室が広く、ゆとりがあって良かった。
- ・異学年の交流も自然体で行われている様子を感じた。

● 教育環境の内ソフト面（学校運営など）について感じたこと

- ・4-3-2制の3段階のカリキュラムで、それぞれの特色を出した取り組みであると感じられた。
- ・子ども達同士で考え教え合うという指導は素晴らしい。
- ・モーニングスタディやスキルアップタイムを設定し、学習面での充実が図られている。

● 教育環境の内ハード面（施設・設備など）について感じたこと

- ・教室は広くロッカーも大きめになっていてゆとりを感じられる。
- ・各階に教師ステーション（職員室以外の教員用作業スペース）が設置されており、効率の良い指導が出来ると思う。

● 義務教育学校のメリットとして感じたこと

- ・1～9年生までが同じ施設内で異学年交流できる。
- ・異学年との交流もふまえた1～9学年の一貫教育を実施していることで、学びやすさがあると感じた。

● 義務教育学校のデメリットとして感じたこと

- ・特にない。（複数回答）

● 総括（以前視察した学校との比較や規模感についての所感など）

- ・メディアセンターやランチルームの充実で異学年交流が楽しく出来そうに感じる。
- ・屋外運動場も広く、外での異学年交流にも良いと思う。
- ・地域とのコミュニケーションも良くとれており、地域の協力体制が充実している。

2) 洛西陵明小中学校

● 生徒の様子と学校の雰囲気（異学年の関わり、学校全体の活気や落ち着きなど）

- ・子ども達は明るくてあいさつもしっかり出来ているように感じた。（複数回答）

● 授業の様子（教科・学年、指導の工夫※教科担任制や乗り入れ、学年間の指導内容の入替や前倒し、独自教科など）

- ・後期課程の先生が前期課程の乗り入れ指導しており、分かりやすく指導していた。

● 教育環境の内ソフト面（学校運営など）について感じたこと

- ・全学年の先生方が協力して授業運営されていることは素晴らしい。
- ・3ステージ制を取り入れており、それぞれのステージごとに特色のある教育を感じられた。
- ・教員間の乗り入れが積極的かつ容易に行われている印象を受けた。

● 教育環境の内ハード面（施設・設備など）について感じたこと

- ・木の温もりと柔らかさを感じられる。
- ・各階にティーチャーズステーション（職員室以外の教員用作業スペース）が設置してあるのは良い。
- ・施設内が全体的に広い。
- ・ゆったりとしたスペースが多く感じられた。
- ・保護者を集めたPTA総会などに利用できるスペースが施設の入口付近にあり、実用的で良い。
- ・施設の地域開放において、セキュリティラインが確立されており安心感がある。

● 義務教育学校のメリットとして感じたこと

- ・1～9学年を通しての教育で異学年との交流もスムーズに行うことができ、一貫性のある教育方針で学校運営が行える。
- ・上級生が下級生の面倒をしっかりと見ている。

● 義務教育学校のデメリットとして感じたこと

- ・特にない。（複数回答）
- ・ステージ制の採用により、従来の6年生の卒業式はないため、節目を意識させる工夫が求められる。
- ・特に管理職の事務的負担は増える可能性があるため、サポート体制について検討が必要になる。

● 総括（以前視察した学校との比較や規模感についての所感など）

- ・地域との繋がりが強い印象を受けた。
- ・PTA主体で学校が創設されたという事なので、地域との話し合い等がスムーズにいったのではないかと感じた。
- ・地域住民の要望や未来への希望がたくさん詰まった学校であると感じた。

3) 住吉小中学校

● 児童生徒の様子と学校の雰囲気（異学年の関わり、学校全体の活気や落ち着きなど）

- ・あいさつができ、落ち着きのある学校と感じた。また、人懐っこさがあり、安心できる環境にある。
- ・子どもたちはとても落ち着いており、どのクラスも授業に落ち着いて参加していたように感じた。

● 授業の様子（教科・学年、指導の工夫※教科担任制や乗り入れ、学年間の指導内容の入替や前倒し、独自教科など）

- ・中学校の教員が小学校の児童を教えるという専科指導の充実を推進している。各務原市においても、学校から市教委に対して専科教員の要望を積極的に出していくことで、教育の充実が期待できると感じた。
- ・ゲストティーチャー（地域の専門家や市民が授業を行い、子どもに知識や経験・技術等を伝える特別講師）が印象に残った。子ども達の身近にあり、興味や関心が高いものを作ることを通して学ぶことは、教科書から発想される教材より学びが多いと思う。子ども達が授業に一生懸命取り組んでいた。

● 教育環境の内ソフト面（学校運営など）について感じたこと

- ・教員が9年間を見通した子どもたちの成長を見ることができ大いにやりがいを感じており、教員に対するプラスの効果が出ている。
- ・地域には多くの学びを提供する人がいる。それを取り入れる校長や先生方の進取の姿勢がすばらしい。地域の教育力を生かし、子ども達の学びを深めている。

● 教育環境の内ハード面（施設・設備など）について感じたこと

- ・校舎は都市型の設計で、非常にシンプルな構造デザインでありながら、交流スペース等も十分確保されており、新しい校舎として非常に効率性の高い模範となるものだと感じた。
- ・立地が都心部のため敷地は広くはないが、施設内はゆとりを感じさせる広さがある。プールや体育館も立派で、限られた敷地条件を有効に活用されていた。
- ・施設が大変充実していたと思う。廊下も広く、スペースもたくさん用意されていた。
- ・管理面や安全面から、どうしても小学校と中学校で動線や時間を一緒にできない部分がでてくる。
- ・ワークスペースがあるのが良い。

● 小中連携校のメリットとして感じたこと

- ・小学校から中学校に進学した際に不登校数が増えないことから、中1ギャップを解消する効果が顕著に現れている。
- ・校長の教育方針が職員全員に徹底されており、9年間で一貫した教育ができています。小中の先生が子どもについて理解すれば、子どもを支える大人が増える。各階に小と中両方の教室があるのが良い。中学生からも学ぶことができ、先生の交流もしやすい。
- ・子どもたちが長い期間の関係を構築できる。

● 小中連携校のデメリットとして感じたこと

- ・特にない。（複数回答）

● 総括（以前視察した学校との比較や規模感についての所感など）

- ・敷地が狭くても階数を増やせばゆとりのある校舎を建てることができる。9年間を一貫した教育として学ぶことができる環境が整っていた。
- ・小学校、中学校それぞれの教員免許しかもっていない先生が多数を占めている中、授業を相互に補完したり、教科担任として乗り入れたりするなど、様々な工夫があり素晴らしいと感じた。
- ・校長が率先して小中学校それぞれの教員が互いに接する場を作っており、良い学校経営につながっていると思う。各務原市においては住吉小中学校と同じような規模の川島小中学校でモデル校として実践し、職員が他の学校でその内容を広げる力を育てると良いと思う。

4) 稲築東義務教育学校

● 生徒の様子と学校の雰囲気（異学年の関わり、学校全体の活気や落ち着きなど）

- ・みんな元気で良い印象を受けた。
- ・どこの学級も子どもたちが落ち着いていた。

● 授業の様子（教科・学年、指導の工夫※教科担任制や乗り入れ、学年間の指導内容の入替や前倒し、独自教科など）

- ・小中学校の先生の交流が進んでいるという点がすばらしいと思う。
- ・中学校に配置される教員によって乗り入れする教科が決まってくるようで、人事によるところが大きいようだ。

● 教育環境の内ソフト面（学校運営など）について感じたこと

- ・ふるさと学習・キャリア教育など特色のあるカリキュラムがある。本市においても、9年間かけて地域とつながる学習が必要だと感じた。
- ・異学年交流ができるスペースがあり、交流を促す工夫がみられた。

● 教育環境の内ハード面（施設・設備など）について感じたこと

- ・校舎の作りが非常に独創的であり、オープンな図書スペースであるメディアコモンズ、発表ステージ、地域住民の避難所として利用可能なサブアリーナ等、デザイン性に富んだ校舎が非常に印象的であった。
- ・どの学年からも利用できる2階にあるメディアコモンズがすばらしい。発表スペースもあり、体育館に行かずとも活用できる点も良い。個人・グループの探究活動の発表に活用できると思う。
- ・施設がすばらしいがゆえに、維持管理コストはどれくらいかかっているのか気になった。

● 義務教育学校のメリットとして感じたこと

- ・異学年交流の充実や前期課程と後期課程の教職員の連携など義務教育学校としてのメリットを非常に感じた。
- ・ふだん4-3-2制をとっているが、行事の時は6-3制や5-4制にするなど、それぞれの狙いをもって柔軟に対応しているとのことであり、義務教育学校のメリットを感じた。
- ・前期課程の1年生の段階からきちんと指導をしないと9年生時において義務教育段階の学力が習得できないことが実感できるため、義務教育学校のメリットとして前期課程の教員の意識改革に大きく寄与しているとのことであった。
- ・1人の校長のリーダーシップのもと、9年間を見通した教育が発達段階に応じて指導できる。

● 義務教育学校のデメリットとして感じたこと

- ・特にない。（複数回答）

● 総括（以前視察した学校との比較や規模感についての所感など）

- ・ソフト面とハード面の両方での良さがみられた学校だった。各務原市においても、開校の数年前から

計画的に準備を進め、地域からの意見も聞きながら、人的加配も含めた十分な検討が必要だ。

・後期課程が前期課程に勉強を教える活動は素晴らしいと思う。各務原市において再編を検討する際も、どう異学年交流をしていくと良いのか、どんな学校にしたいのかコンセプトを明確にした設計を行い、ソフト面・ハード面の両輪で進めていくことが重要だと感じた。